Nagasaki Higashi
Global Report
International Department

ＧＳⅡ　第５号

September 13, 2019

ベトナムＦＷ８/１３～８/１７　水班報告

私たち国際科水班４名（玄、佐々野、永田、森田）は８月１３日から８月１７日までの５日間ベトナムのハイフォン市、カットバ島、ハノイ市でフィールドワークを行いました。１日目にハイフォン市、２日目にカットバ島、３日目からはハノイ市で活動しました。

１日目（ハイフォン市内研修）

私たちはベトナムＦＷを充実したものにするため、熱意と興奮を胸に長崎駅前に集まりました。それから、高速バス、飛行機、自動車で合わせて１２時間かけてハイフォンへ向かいました。最初に降り立ったハノイノイバイ国際空港はとても都会的な雰囲気がありましたが、一歩市街地から出てみると一面に畑が広がっており、牛やヤギが悠々と道路を歩いているのどかな風景がありました。道路の舗装は日本ほど進んでおらず、道路脇へのごみのポイ捨ても多くみられました。ハイフォンに着いてからは、ハイフォン教会、市民劇場、花市場を訪れベトナムの人々の生活習慣を知りました。ベトナム人はフランス植民地時代の影響や周辺のアジア諸国の影響などで様々な文化が混じり仏教やキリスト教など信仰も様々でした。

２日目（カットバ島視察、ランハー湾クルーズ）

２日目はカットバ島へ移動し活動を行いました。一昨年まで実施されていたマングローブ植林は、今年も日程の関係で実施できず、少し残念に思いましたが、代わりに様々な場所を視察することができました。まず、ホスピタルケープというフランス植民地時代の病院を訪れました。当時の病院のまだきれいに整備されていない状況がそのまま残っており、ガイドのチンさんから当時の悲惨な状況や、爆撃から逃れるために洞窟に作られたということも教えていただきました。その後、ランハー湾クルーズを体験し、雄大な熱帯雨林と石灰岩からなる無数の島々を船の上から見学しました。島に囲まれた海だったので波も少なく、船から見る海も日本と同じくらいきれいだったので、快適なクルーズになりました。途中で、水上生活村も視察し、その土地での生活について質問に答えていただきました。今まで見たことのない水上での生活に大きな驚きを感じました。「ごみの分別はしない」「排水はそのまま海に流す」「台風が来ても普通に生活できる」など日本での生活とかけ離れた実態を知り、実際に行ってみなければわからないことをたくさん聞くことができました。その後カットバ島へ戻りビーチなど様々な場所を視察しました。

３日目（ハノイ市内研修）

３日目は、ハロン湾からハノイに移動し、市内観察を行いました。たくさんのバイクが行き交う街の様子は、とても新鮮でした。ベトナムのスーパーマーケットでは大きめのバッグや荷物はロッカーに入れて買い物することや、ベトナムの通貨では細かい単位がないので細かく出たおつりは少し多めにくれたりすることなど驚いたことが多くありました。その他に、ホアンキエム湖、西湖を訪れ、魚がたくさん浮いていたり、異臭がしたり、すごく濁っていたりなど日本とは全く違う環境を目の当たりにしました。また、西湖には巨大亀の都市伝説があるなどベトナムの伝統文化についてもガイドの方から教えていただきました。そしてベトナム少数民族博物館にも訪れ、様々な民族衣装や民族文化を資料で見ることができました。

４日目（ハロン市内にて水質調査、下水処理場視察）

現地での活動もいよいよ最終日となったこの日、私たちはハノイ市内にて河川の水質調査、下水処理場訪問およびＪＩＣＡ職員との意見交換会を行いました。水質調査では、ハノイ市内 4 ヶ所の川や湖、計４地点における水を採取し、ＣＯＤ、硝酸態窒素、亜硝酸態窒素、アンモニウム態窒素、リン酸態リン等の含有量を調べました。川によっては地元の人々が釣りをしていたり、目の前の民家から排水が流れ込んでいるのが露わになっていたりと、地域の生活と結びついた川の様子を観察することができました。ＦＷ前に実施していた長崎での水質調査の結果との比較もでき、多くの収穫が得られました。次に、私たちは、バイマウ下水処理場へ行きました。バイマウ下水処理場は、ハノイの中心部に位置し、ＪＩＣＡの経済的な援助を受けて設立された施設です。私たちはそこで、生活排水が処理され、ごみや汚泥が分けられていく過程を見学し、日本で調べても分からなかったことを専門家の方々に直接質問しました。ここでも、処理前と処理後の水を検査したのですが、日本のそれと比べてもまったく劣らない処理能力の高さが分かりました。しかし、このような高性能な下水処理場が整備されている地域は、ベトナム全土で見るとほんの僅かしかないという状況も、私たちが考えていかなければならないことだと感じました。また、処理場の方と意見交換する機会では、現地での下水の問題点や様々な水問題を教えていただくなど、研究への考えが深まりました。

全体を通して

私たちは今回のＦＷを通して、世界の中の自分の小ささを知りました。隣には海外の方がいて異国の言語が飛び交っている、そのような状況にさらされる中で自分という存在がいかにちっぽけなものであるかを痛感しました。また、そのような状況だからこそ、仲間の偉大さや思いがけぬ一面に触れることができました。現地の方、専門家の方、様々な人と交流する中で、日本で調べるだけでは到底考えることができなかった新たな視点を学ぶこともできました。この研修は、班員各々にとって、今後の研究の方向性を考える大きな転換点になったと思います。ベトナムで得た沢山のことを、班員やクラスメイトと共有し、東高のＳＧＨ活動に還元していきたいです。最後に、このような大変貴重な経験をする機会を設けていただき、本当にありがとうございました。